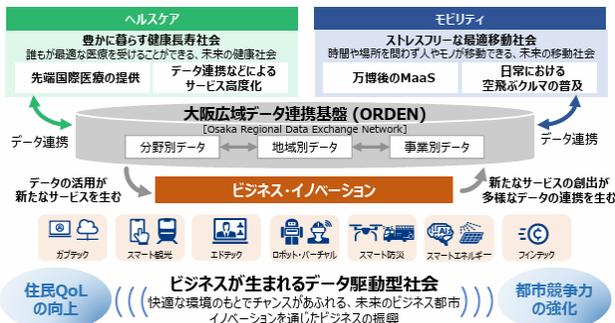


大阪公立大学 大阪府内43市町村との連携事例

自治体の課題(ニーズ)

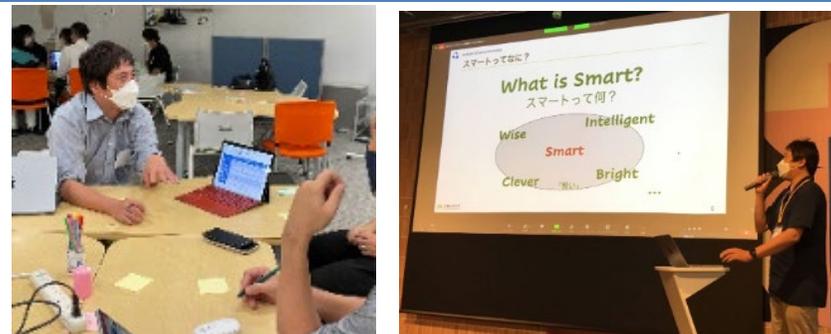


大阪は複数分野の先端的サービスの提供と大胆な規制改革などによって、世界に先駆けて未来の生活を先行実現する「まると未来都市」であるスーパーシティの実現をめざしている。

そのためには、大阪全体でデータ利活用が進む必要があり、大阪広域データ連携基盤(ORDEN: Osaka Regional Data Exchange Network)を活用して、未来の豊かに暮らす健康長寿社会やストレスフリーな最適移動社会などを目指している。

しかし、データ利活用に関して具体的に進めていく方法や、そもそもどこから始めたらよいか分からない状態となっていた。

研究成果(シーズ)の還元



大阪におけるデータ利活用の実現に向けて、大阪公立大学スマートシティ研究センター(現スーパーシティ研究センター)の活動の一環として、大阪スマートシティパートナーズフォーラム(OSPF)の第8プロジェクト(データ利活用)と連携した。都市シンクタンク機能として、府内市町村のデジタル格差が大きいことに着目し、現地に直接足を運んで現状を調査した。具体的には、府内を網羅的に現状把握するため、関係づくりも含めて43市町村すべてにヒアリングを実施した。また、同時にデータ利活用機運の醸成を目指した啓蒙活動も行い、「やってみよう・やってみなはれ」をモットーに、データを使ったイベントや誰でもアプリ作成の体験ができるイベントを主催している。

この連携に携わった研究者



情報学研究科
阿多 信吾 教授

(研究者の経歴)

1996年大阪大学基礎工学部情報工学科を飛び級により退学、その後同大学院基礎工学研究科博士前期課程入学、2000年同博士後期課程了。博士(工学)。2000年4月より大阪市立大学工学部情報工学科助手。2003年同講師、2006年同大学院工学研究科助教授(のち准教授)を経て、2013年4月同教授。2022年4月大阪市立大学と大阪府立大学の統合により大阪公立大学となり、同教授。学長補佐(情報・データ戦略)、情報基盤センター長、スーパーシティ研究センター長を兼務、情報システム全般の企画・構築、スマートユニバーシティに関する戦略立案にも従事。